

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患実用化研究事業）  
分担研究報告書

中性脂肪蓄積心筋血管症の診断基準における腎障害の位置づけの検討

研究分担者 長澤康行 兵庫医科大学 内科学 腎透析科 講師

研究要旨

中性脂肪蓄積心筋血管症 (triglyceride deposit cardiomyovasculopathy: TGCV)の早期発見、早期治療を可能とするための、“中性脂肪蓄積心筋血管症 の診断の手引き“の作成にあたり、腎障害の位置づけを検討した。中性脂肪蓄積心筋血管症の症例において、慢性腎不全症例が報告されている一方で、疫学調査での中性脂肪蓄積心筋血管症 の保因者において、検尿異常や腎機能障害を多く認めることは無かった。これらのことから今回、中性脂肪蓄積心筋血管症 の診断の手引きには腎障害は項目として組み込まれなかった。今後、重症度の項目としての腎障害の関与などを検討していく。

A. 研究目的

中性脂肪蓄積心筋血管症の早期発見、早期治療を可能とするための、“中性脂肪蓄積心筋血管症 の診断の手引き“の作成にあたり、腎障害の位置づけの検討を行う。

B. 研究方法

疫学調査での、中性脂肪蓄積心筋血管症の保因者における、検尿異常・腎機能低下の頻度を検討し、保因者と非保因者の中で、腎機能障害・蛋白尿の頻度の差を検討し、中性脂肪蓄積心筋血管症における腎障害の位置づけを検討した。

（倫理面の配慮）

本研究の疫学調査は、研究班の代表者より、大阪大学の倫理委員会の承認を得ている。

C. 研究結果

疫学調査での、中性脂肪蓄積心筋血管症の保因者・非保因者における、検尿異常・腎機能低下の頻度の差を認めなかった。このため、“中性脂肪蓄積心筋血管症 の診断の手引き“の診断項目に腎障害は含まれなかった。

ただ、中性脂肪蓄積心筋血管症 として、報告された中では、腎障害を有する者を多く認めており、心不全に伴う 2 次性腎障害、糖尿病合併症例における糖尿病性腎症の関与などが考えられ、今後も継続して、腎障害の関与を検討し、中性脂肪蓄積心筋血管症 の重症度分類作成の折には、一項目としてさらに検討を重ねる。

E. 結論

“中性脂肪蓄積心筋血管症 の診断の手引き“の診断項目に腎障害は含まれな

った。今後も重症度の一項目としての検討を継続する。

F. 健康危険情報

該当せず

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし